

日本医療脂肪幹細胞研究会・CRF協会

先生方 各位

CRF療法と2014年11月に施行される 『再生医療新法』との関係につきまして

謹啓

貴院益々ご盛栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

CRF療法を実施されている先生方におかれましては、2014年11月25日より施行される再生医療新法との関係を懸念されている事と存じます。CRF療法と当法律は全く関係なく、今後もCRF注入手術を行われても法的な問題はございません事をお知らせ致します。

根拠は、CRF療法では、患者様本人から採脂を行い、加重遠心分離して脂肪移植を行いますが、これは組織移植であり、細胞治療とは一線を画すものです。

再生医療新法の規制対象は、脂肪や骨髓から採取された組織から細胞を単離し、細胞を用いた治療を行うに對してであり、更に、その細胞を培養したり、細胞操作（ES細胞やiPS細胞）を行う事で第1種・第2種・第3種と区分しております。

CRF療法におきましては、細胞の単離（酵素・コラゲナーゼ等の薬剤処理）を行わず、まして培養とも無縁です。CRF療法は脂肪組織移植術ですので、当法律には一切関係致しません。

また、CRF脂肪をジェリリングして細分化しているMicroCRF療法も、細胞の単離を行っておりませんので同様の扱いになります。

しかしながら、先生方がCRF療法やMicroCRF療法についてご説明や広報をされる際に、脂肪幹細胞凝縮や脂肪細胞再生など、細胞治療であるかのような表現を用いて、一般や公的機関に誤解を与えないよう重々ご注意下さい。

謹白

CRF協会 運営事務局長

金島秀人

Hideto Kaneshima, M.D., Ph.D